

「新しい旅のスタイル」の実施結果について

1 実施期間

- 令和3年4月2日から5月15日まで、及び令和3年10月15日から12月5日まで
- ※ 感染状況を踏まえ、4月2日から5月15日までは札幌市を除いて事業実施
- ※ 感染の拡大に伴い、5月16日から10月14日までは事業全体を停止
- ※ 道内を6つの圏域に分け、利用者を同居者（個人も可）に限定して開始。感染状況等に留意しながら、11/1からは圏域設定を解除して全道一円で実施の上、11/15からは同居者要件を解除。

2 利用実績

- 利用人数や支援金額などは次のとおり。

| 区分 | 参加事業者数 (者) | 利用実人数 (人) | 利用延べ人数 (人泊) | 支援金額 (円) | 平均支援単価 (円) |
|--------|---------------|--------------|----------------|---------------|---------------|
| ホテル・旅館 | 588 | 322,142 | 344,048 | 2,021,778,500 | 5,876 |
| 簡易宿所 | 191 | 3,184 | 3,878 | 19,475,500 | 5,022 |
| 民泊 | 107 | 1,121 | 1,561 | 7,591,500 | 4,863 |
| 旅行会社 | 133 | 17,823 | 18,820 | 127,940,000 | 6,798 |
| 観光協会 | 34 | 3,218 | 3,691 | 18,215,000 | 4,935 |
| 合計 | 1,053 | 347,488 | 371,998 | 2,195,000,500 | 5,901 |

- 1回あたりの平均宿泊数は1.07泊、1回あたりの平均利用者数は2.12人/泊。
- 利用者に対してアンケートを依頼（約137,000通回収）。

3 圏域別利用状況

- 圏域別の利用状況は次のとおり。

| 圏域 | 利用実人数 (人) | 利用延べ人数 (人泊) | 支援金額 (円) | 平均支援単価 (円) |
|-----|--------------|----------------|---------------|---------------|
| 札幌市 | 66,046 | 71,989 | 386,130,500 | 5,364 |
| 道央① | 16,692 | 17,574 | 108,449,000 | 6,171 |
| 道央② | 80,757 | 85,004 | 551,360,500 | 6,486 |
| 道南 | 46,730 | 50,262 | 328,106,500 | 6,528 |
| 道北 | 53,477 | 57,953 | 316,345,000 | 5,459 |
| 道東 | 83,786 | 89,216 | 504,609,000 | 5,656 |
| 合計 | 347,488 | 371,998 | 2,195,000,500 | 5,901 |

※ 道央①：石狩（札幌市を除く）、空知 道央②：後志、胆振、日高
道南：渡島、檜山 道北：上川、留萌、宗谷 道東：オホーツク、十勝、釧路、根室

- 最も利用人数が多いのは「道東」、最も少ないのは「道央①」。
- 最も支援金額が多いのは「道央②」、最も少ないのは「道央①」。

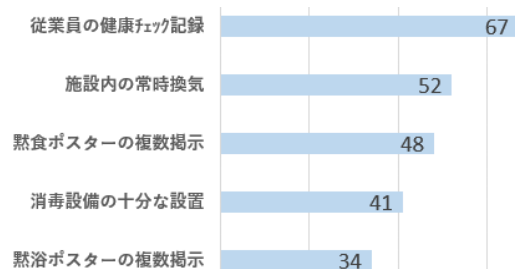
4 宿泊施設の検査結果

- 事業者に対して抜き打ちで立入検査を実施（検査総数610件）。

※ 「△」が多かったチェック項目
(1つの施設で複数該当する場合がある)

| 圏域 | 札幌市 | 道央① | 道央② | 道南 | 道北 | 道東 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|
| 検査数 | 154 | 49 | 109 | 60 | 76 | 162 | 610 |
| ○ | 154 | 49 | 109 | 60 | 76 | 162 | 610 |
| △ | 23 | 7 | 22 | 28 | 8 | 103 | 191 |
| × | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

- ：全体として○（十分な対策が取られている）だったもの
- △：一部のチェック項目に△（対策が取られている）があったもの



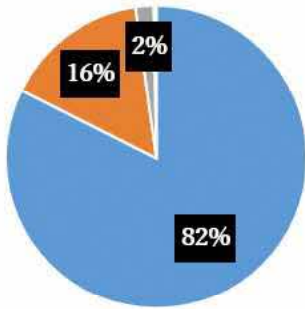
- 宿泊施設の感染対策は、各施設とも工夫しながら概ねしっかり行っていた。
- 事業者からの意見は次のとおり。
 - ・ お客様、従業員ともに感染防止に対する意識が高くなってよかった。
 - ・ 宿泊客がルールを守ってくれる。
 - ・ 感染対策を意識、実行しながら混雑を避けるスタイルが確立されつつある。

5 アンケート結果

- 宿泊施設の感染防止対策について、「満足」「やや満足」の割合は98%、「やや不満」「不満」は2%
- 「やや不満」「不満」との回答の中では、「マスクをしない客」や「施設内、風呂等で大声で話す客」など、他の利用者の感染防止策への意識徹底を求める意見が多かった。
- 「黙食」「黙浴」などの感染対策は、「ワクチン接種等に関わらず必要」との回答が6割以上を占めており、ワクチン接種が進んだ状況においてもこれまでの感染対策を続けていくことが重要と認識されている。

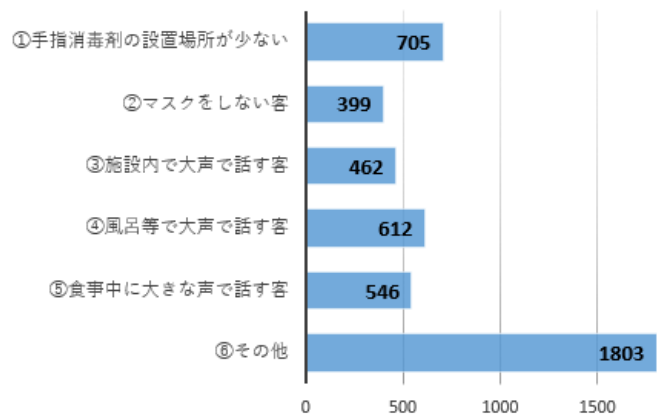
■ 宿泊施設の感染防止対策について

※ 調査期間：4.2-5.15、10.15-12.5



■ 「やや不満」「不満」の内訳（複数回答）

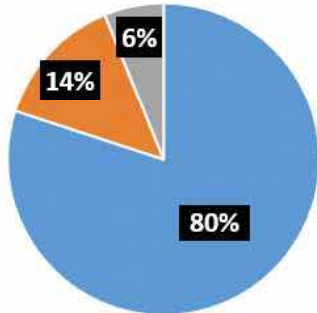
※ 調査期間：4.2-5.15



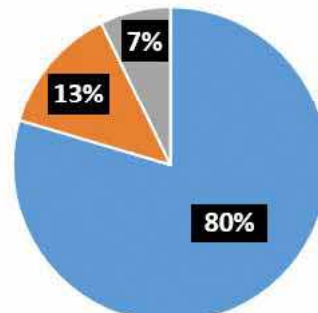
■ 今後の感染対策のあり方等について ※ 調査期間：10.15~12.5

(①、②、③凡例： ■ ワクチン接種等に関わらず必要、 ■ ワクチン接種者等は不要、 ■ 不要)

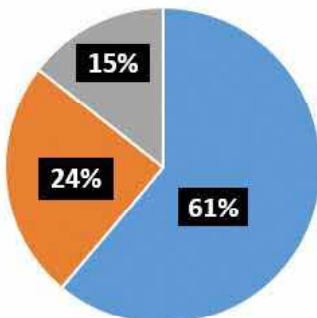
① 黙食



② 黙浴

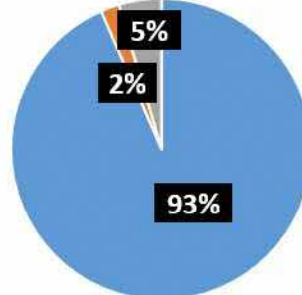


③ 同居者限定テーブル



④ 【任意回答】ワクチン接種

(■ 2回接種、 ■ 1回接種、 ■ 接種していない)



6 結果概要

- アンケートの結果や宿泊施設の検査結果等から、利用者・事業者ともに、感染防止に係る意識が定着し、各種感染対策に着実に取り組んでいる。
- 10月の再開以降、利用者のワクチン接種率（2回完了）は約93%と高い水準であったほか、オミクロン株の流行前で感染も落ち着いている状況であったが、「黙食」「黙浴」「同居者限定テーブル」の実施など、各種感染対策を継続して実施していくことの重要性が認識されている。
- 全道一円で実施した11月以降も上記の傾向に変化はなく、感染対策を徹底する「新しい旅のスタイル」が、全道的に一定程度普及・定着したものと考えられる。